

【次期 北海道自転車利活用推進計画 に関する意見】

1 自転車の日常利用

- バス路線の減少に伴い、バス停と連携した自転車駐輪場やシェアサイクルの整備が必要。
- 速度が遅い自転車は歩道走行で問題なく、混雑時は押して通るなど柔軟な対応が望ましい。
- 高齢者の電動アシスト自転車利用は健康促進に効果的。
- 初心者向けにシェアサイクルの未展開エリアでの試験導入が効果的。
- 利用者の背景をよく把握し、課題を整理することが重要。

2 楽しむための自転車

- 観光客だけでなく、道民の近隣移動や健康促進に適したサイクリングルート of 整備を推進。
- 多様な自転車スタイルに対応する大規模な自転車道路や駐輪場の整備が求められる。
- 魅力的な道の活用やコミュニティ、イベント、情報発信が必要。
- 駅や空港からすぐに自転車を利用できる環境づくりを推進。
- 自転車での観光は土地勘が付き、景色も楽しめる魅力がある。
- 「散走」のようなカジュアルな楽しみ方を広め、町を楽しく走る文化を育てる。
- イベントの開催手続き簡素化により地域振興に寄与。
- 自転車活用は観光や健康促進に効果的だが、酒気帯び運転への注意喚起も必要。
- 道の駅などでのシェアサイクル展開が好評で、観光利用や冬季活用も期待。
- セイコーマートは自転車利用者に配慮したサービスを提供。

3 本格的に利用する自転車

- サイクルトレインの実用化に向けた取り組みを明記すべき。
- 電車への自転車持ち込みは時間制限等のルールで解決可能。
- タクシーでの自転車積載も可能にする制度整備が望ましい。

4 交通安全(ヘルメット)

- ヘルメット着用促進を継続し、企業や教育機関が率先して推進すべき。

- 幼少期からの着用教育が習慣形成に重要。
- 種類や基準の不明確さや髪型崩れなど着用敬遠の課題もある。
- 北海道の低い着用率は学生時代の教育不足が一因で、小中高での着用促進と補助が必要。
- ヘルメット着用や損害保険加入義務化に向けた具体的活動の推進が必要。
- 小中高生からの着用推進が、全体の着用率向上につながる。
- 小中高生への交通安全教育が、大人になっても効果を発揮すると考えられる
-

5 交通安全(ルール)

- 交通反則告知書制度導入に伴い、ルール周知と警察連携を強化。
- 違反者への取締り強化で歩行者・車両との共存を図る。
- ながらスマホや傘さし運転の取り締まり強化が必要。
- 罰則周知は関係機関の連携が不可欠。

6 交通安全(教育)

- 自転車安全教育の継続実施、小中高生への交通安全教室推進が重要。
- 安全利用マナーの啓発も積極的に行う。

7 損害賠償保険

- 自転車損害保険加入促進を継続し、義務化に向けたPRが必要。
- TSマークや個人賠償特約での対応可能性と周知不足の課題。
- 加入促進には高校生への義務化や購入時パンフ配布が効果的。
- 家族分の保険負担感が課題。
- ヘルメット着用や損害保険加入義務化に向けた具体的活動の推進が必要。

【再掲】

8 駐輪場

- 多様な自転車対応の小規模駐輪場増設が望ましい。
- 商業施設等の駐輪義務数にシェアサイクルを含める柔軟な運用が必要。
- 多様な自転車スタイルに対応する大規模な自転車道路や駐輪場の整備が求められる。【再掲】

9 シェアサイクル

- 公用地を活用したポート設置で普及促進を。
- 公共交通と連携したポート設置で利便性向上。
- 交通計画に位置づけた統合的な計画策定が必要。
- 飲酒運転防止のためススキノ周辺はシェアサイクルポート設置なし。
- バス路線の減少に伴い、バス停と連携した自転車駐輪場やシェアサイクルの整備が必要。【再掲】
- 道の駅などでのシェアサイクル展開が好評で、観光利用や冬季活用も期待。【再掲】
- 初心者向けにシェアサイクルの未展開エリアでの試験導入が効果的。【再掲】

10 環境

- 脱炭素化の視点を計画に盛り込み、国の方針を踏まえた施策推進を。
- 自転車利用は CO2 削減に貢献し、シェアサイクルは環境に良い代替手段。
- 環境・健康面の視点を今後重視すべき。

11 観光

- サイクリング要素の過度な強調は控え、アクセシビリティ強化を。
- 道の駅などでのシェアサイクル展開が好評で、観光利用や冬季活用も期待。【再掲】
- サイクルトレインの実用化に向けた取り組みを明記すべき。【再掲】
- 電車への自転車持ち込みは時間制限等のルールで解決可能。【再掲】
- タクシーでの自転車積載も可能にする制度整備が望ましい。【再掲】
- 自転車での観光は土地勘が付き、景色も楽しめる魅力がある。【再掲】

12 健康

- 近隣移動や健康促進のためのサイクリング環境整備が重要。
- 自転車は心身の健康に良いと評価されている。
- 安全な走行のため正しい乗り方や交通ルールの情報提供が必要。

13 インフラ整備

- 既存の豊平川堤防等の修復を優先し、廃線跡や農道の活用も望ましい。
- 車道を削減し、自転車道を物理的に分離する必要がある。
- 維持管理に国の補助金を活用し、札幌中心部にネットワーク化した自転車道整備を。

- サイクルガイドの充実と対応窓口の一元化を求める声もある。
- ナショナルサイクルート整備や路面修復などインフラ改善が求められる。

14 広報・SNS

- 写真やイラストを多用し、わかりやすくイメージしやすい広報を。
- SNS でイベントやグルメ情報など利用者に寄り添った発信を。